

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図】

【地震一口メモ】

地震活動図の見方について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため 1989 年 1 月より月 1 回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台
2026 年 4 月

本誌の過去分は奈良地方気象台ホームページでご覧いただけます。
URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.html>

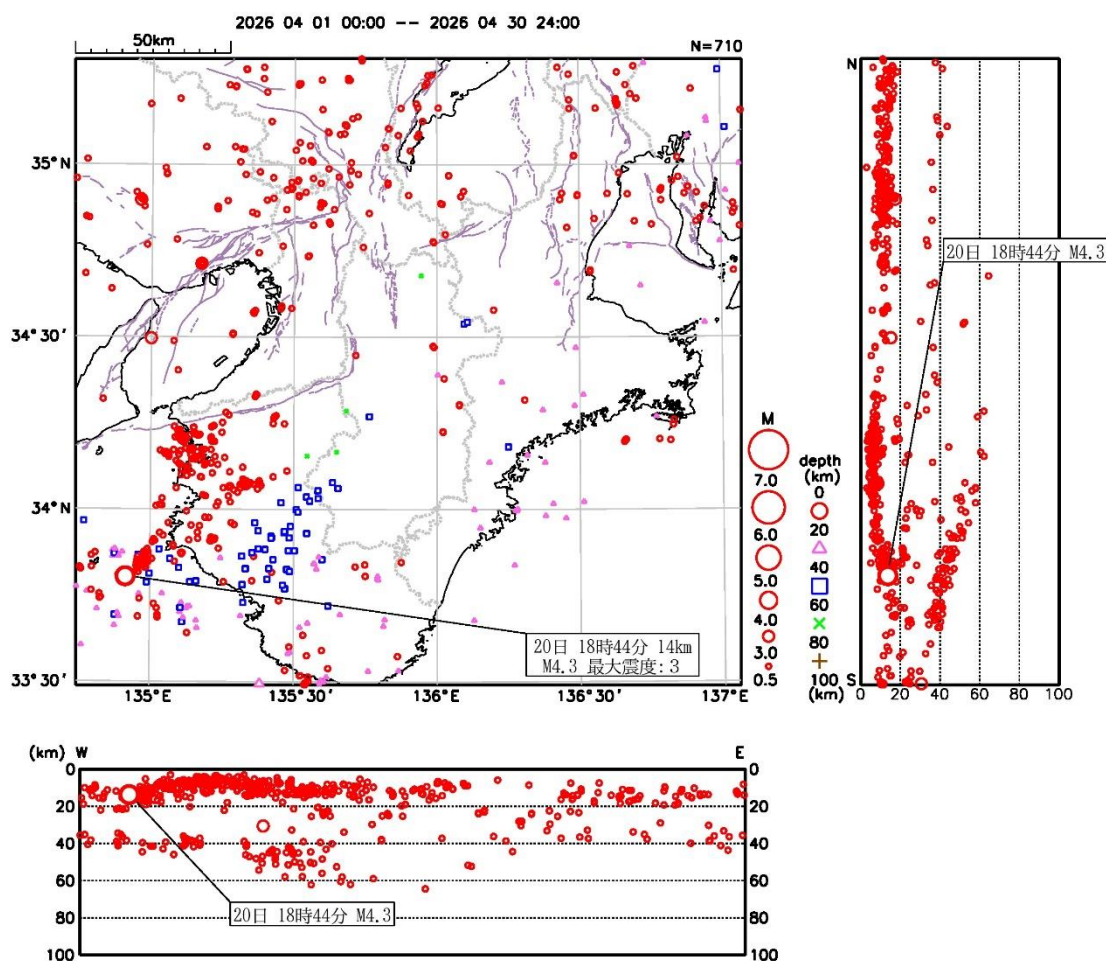


【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

震央分布図（左上）は、地震が発生した場所を地図上に表し、記号の大きさと地震の規模（マグニチュード、Mとも表記）と記号の種類で震源の深さを表しています。また、紫色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層帯を表しています。南北方向の断面図（右上）と、東西方向の断面図（左下）で地震の垂直分布を表し、これらにより地震の発生状況と規模が把握しやすくなります。

図中の吹き出しは、奈良県内で震度1以上を観測した地震を示しており、地震の発生日時や規模などを記載しています。なお、最大震度は奈良県内とは限りません。



【奈良県地震概況】

20日16時52分 三陸沖の地震（深さ19km、M7.7；震央分布図地図範囲外）により、奈良県内では大和郡山市で震度1を観測しました。

20日18時44分 紀伊水道の地震（深さ14km、M4.3）により、奈良県内では宇陀市・天川村・十津川村・下北山村で震度1を観測しました。

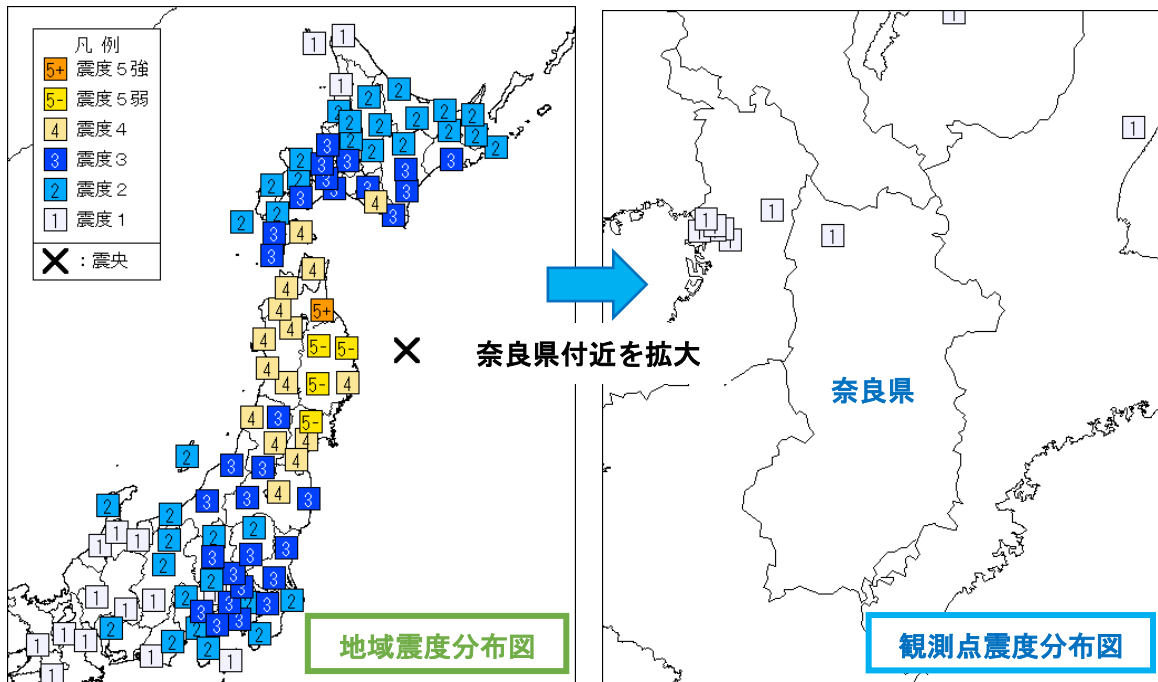
【奈良県で震度1以上を観測した地震の一覧】

震源時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	M
各地の震度（奈良県内のみ記載）					
2026年04月20日16時52分	三陸沖	39° 50.5' N	143° 09.4' E	19km	M7.7
震度 1：大和郡山市北郡山町*					
2026年04月20日18時44分	紀伊水道	33° 48.2' N	134° 54.8' E	14km	M4.3
震度 1：天川村洞川, 天川村沢谷*, 十津川村小原*, 下北山村寺垣内*, 宇陀市大宇陀迫間*					

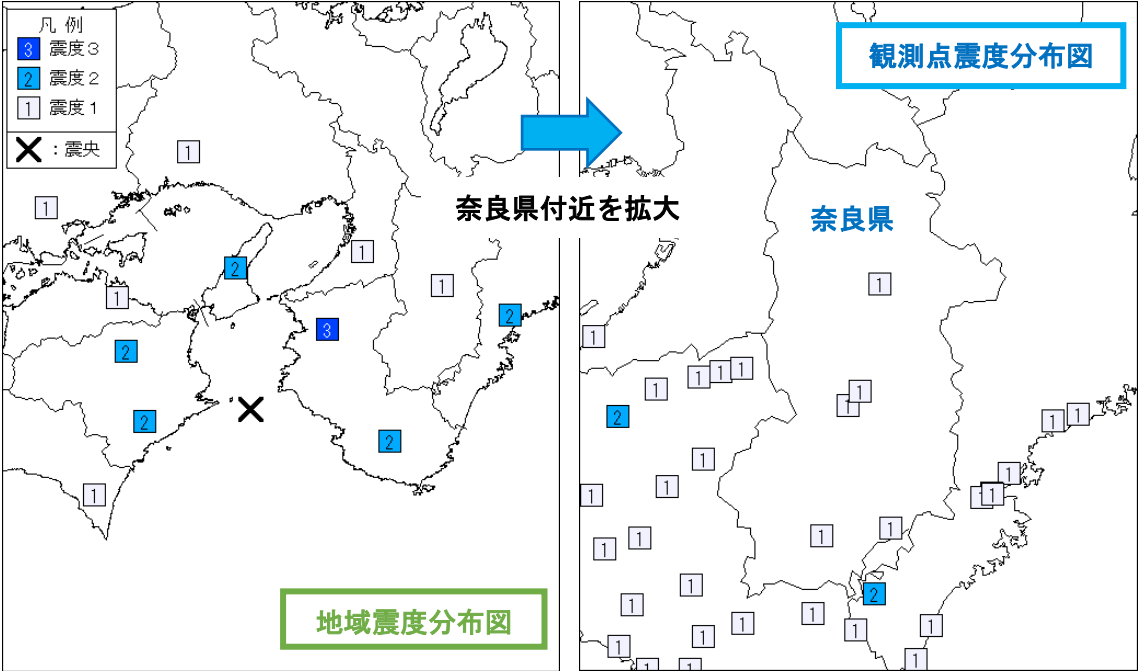
* 印は地方公共団体等の震度観測点です

【奈良県で震度1以上を観測した地震の震度分布】

2026年04月20日16時52分	三陸沖	39° 50.5' N	143° 09.4' E	19km	M7.7
-------------------	-----	-------------	--------------	------	------



2026年04月20日18時44分 紀伊水道 33° 48.2' N 134° 54.8' E 14km M4.3



【地震一口メモ】

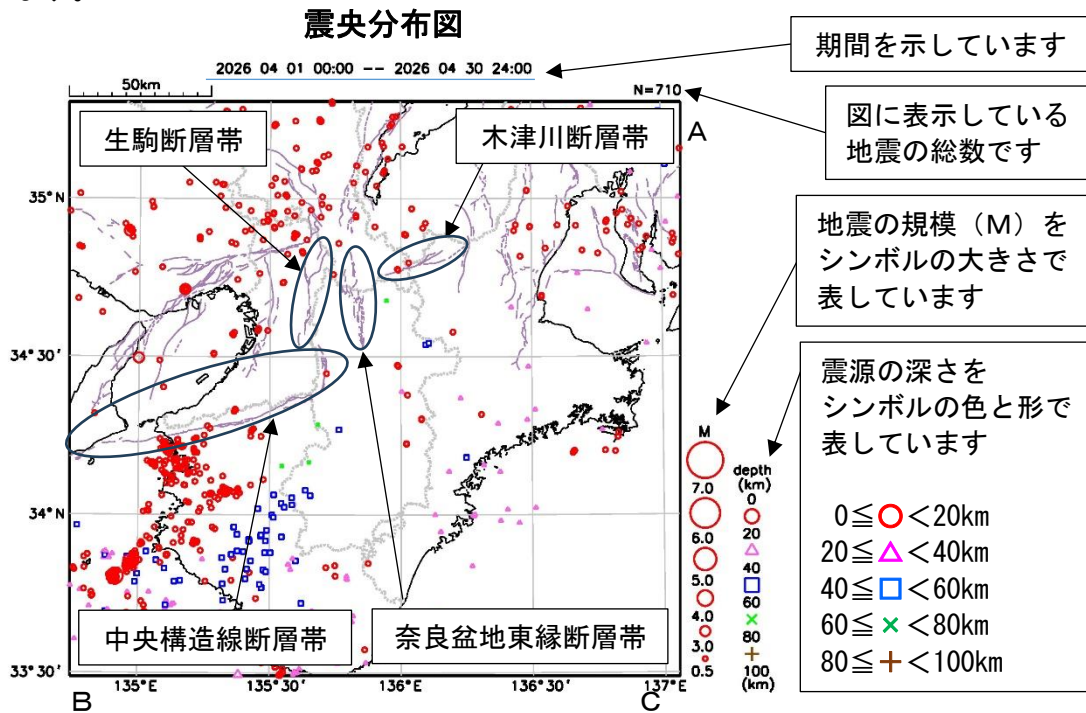
地震活動図の見方について

「奈良県の地震」では奈良県周辺で発生した1か月間の地震活動について地震活動図により説明しています。地震活動図は期間中に発生した地震の震央（震源（地震が発生した場所）の真上にあたる地表上の位置）を地図上に表し、同じ領域の地下の断面を表示させることで、地震が発生した場所が明瞭に分かるようにしたものです。

今回は、地震活動図に用いる「震央分布図」および「断面図」の見方について解説します。

「震央分布図」

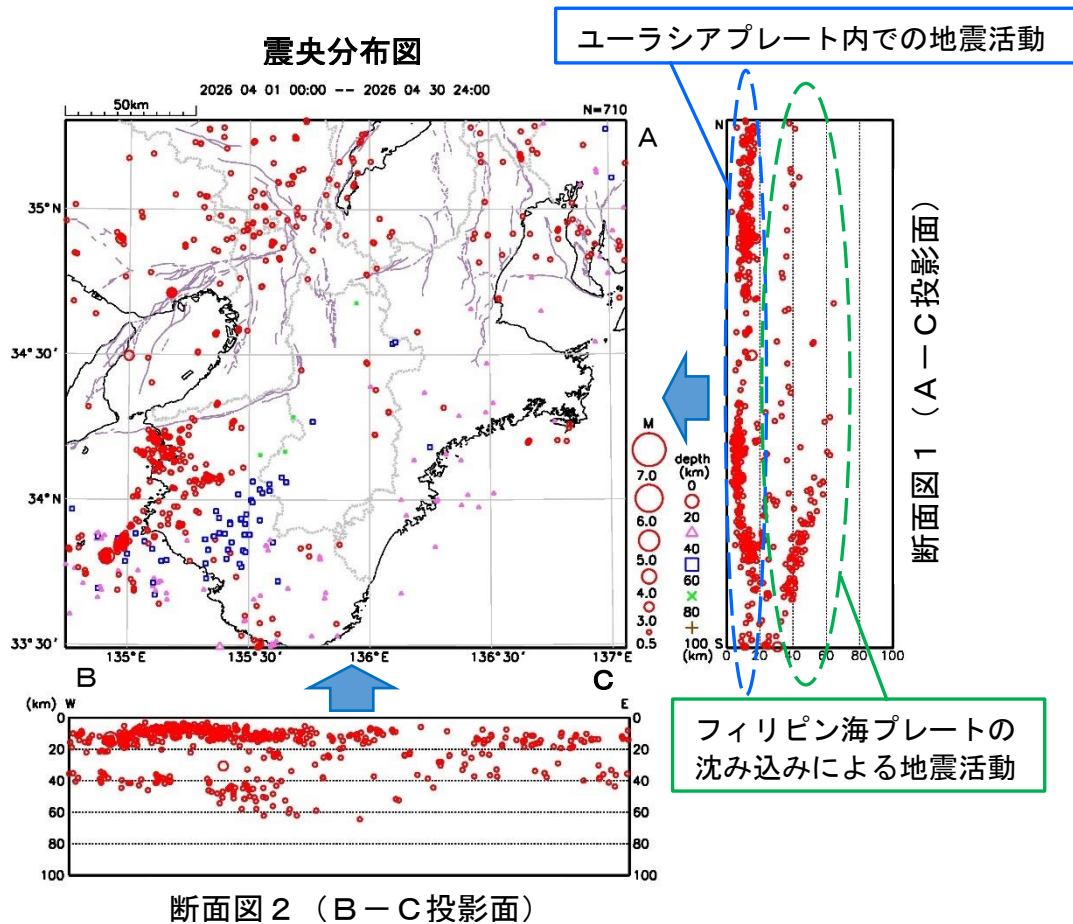
各地震の震央を地図上に表示した図が震央分布図です。「奈良県の地震」では月毎に地図の範囲内で深さ100kmより浅いところで発生した地震について、シンボルを用いて表示しています。



シンボルについては、

- ・位置により ⇒ 緯度・経度
 - ・色と形により ⇒ 震源の深さ (0 km ~ 100 km)
 - ・大きさにより ⇒ 地震の規模 (マグニチュード: M)
- を表現しています。

また、地震調査研究推進本部による主要活断層も地図上に表しています。



「断面図」

断面図は、震央分布をある鉛直断面上に投影した図です。「奈良県の地震」では概ね南北の投影面 (A-C 投影面) の断面図 1 と、東西の投影面 (B-C 投影面) の断面図 2 を掲載しています。これらの断面図では、震央分布図に表された地震に対応した深さが 2 次元的に確認できます。断面図には深さの情報があるため、シンボルの形は同じで、マグニチュードの大きさをシンボルの大きさで表しています。

震央分布図と断面図を見比べることにより、ユーラシアプレートとフィリピン海プレートで発生する地震活動の様子を見ることができます。